

農報

術・資材などの
けします。

水稲



平成 30 年産早期水稲について



水稲
吉田 義文
指導販売部
0969-22-1105

いよいよ平成30年産の早期水稲も始まります。異常気象を受けにくい稲を作るには、まず健康な稲を作ること、健康な稲を作るには適正な育苗管理と適正な水管理を行うこと、そして土作りです。

また、昔から「苗半作」と言われています。早期水稲の場合、気温が低い厳しい条件下での田植えですので、苗

の良否が初期生育に大きく影響します。品質の良い米づくりのために、健苗の育成に努めましょう。

本田の準備については堆肥や土壌改良資材の投入と、作土を15cm以上確保するよう心掛けて下さい。

育苗施設の点検・準備

約1ヶ月間の育苗期間となります。春一番等、突風被害が毎年見受けられますのでハウス資材の点検と修繕は早いうちに行いましょう。

健苗の育成

種子は充実した、健全なものを使いましょう。そのた

めには必ず種子選（比重選）を行って下さい。（比重水10リットルに塩2kg）

病害虫防除のために種子消毒と育苗箱の洗浄を行いましょう。種子消毒に使用した消毒液は河川や用水路に流さないようにしてください。

早期水稲の育苗日数は25日程度ですので、田植え日から逆算して播種日を決定しましょう。2葉苗～2.5葉苗の場合の播種量は乾粉で150g（催芽粉では180g）が基準となります。

播種に最も適しているのは、ハト胸状態の時です。そのためには十分に浸種を行って下さい。

また、水の入れ替えと、1日1回は攪拌して水温が均一になるようにしましょう。

水田の準備（※元肥の施肥量の変更について）

近年、主食用米の購買者より他の産地と比較して全体的に痩せ米が多いとの指摘があります。その為、昨年より元肥の施肥量を50kgへ変更しています。穂肥は15kgへ削減していますので注文の際はご注意下さい。効果としては、初期育成の促進及び地力の向上を促しますので、実施の程宜しくお願い致します。

野菜



シシトウ・甘長とうがらし栽培



野菜
平田 優輝
上島営農指導センター
080-1729-1639

露地栽培

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
シシトウ	△	—	■	■	■	■	■	■
H・長とうがらし	△	—	■	■	■	■	■	■

定植：△

収穫：■

定植

1. 植穴は苗鉢よりもやや大きめにし、50～70cm間隔であける。
2. 定植苗は、第一果房が開花する3～4日前の若苗を定植する。
3. 定植時には、アブラムシ・スリップス対策としてスタークル粒剤を1株当たり1～2g植穴処理する。
4. 定植を行う際は、鉢土の上2cm位が見える程度に浅植えする。
※植え付けが深いと白絹病や疫病の原因となる。
5. 定植後、初期生育促進の為に、株元に液肥灌水する。
6. 定植後、直ちに支柱に誘引する。

定植後の管理

1. 定植後7～10日頃までは、鉢土が乾燥しないように株元に灌水し、根の活着を促す。
2. 活着後は、徐々に灌水量を減らし、根を深く張らせる。

3. 第一分枝以下の果実・脇芽は、早めに取り除く。
4. 定植後20日前後までに、本支柱及びネット張り（2m間隔）を行う。

整枝・誘引

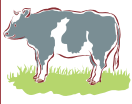
1. 整枝は、出来るだけ中心に光線が入るように摘芯する。
2. ネット張りは、樹の生育に合わせて行う。高くなった場合は、2段目を張る。

施肥量

シシトウ	10a当り/kg		
必要成分量	N	P	K
元肥	30	25	30
追肥	10	10	10
合計	40	35	40

甘長とうがらし	10a当り/kg		
必要成分量	N	P	K
元肥	15	20	15
追肥	15	15	15
合計	30	35	30

詳しいことは各地域の担当者、又は栽培講習会等でお聞き下さい。



子牛の寒冷対策について



畜産

山下 和彦

上島営農指導センター
080-1766-6339

現在も子牛の相場は高値傾向で推移しています。発育の良い子牛ほど購買者に喜ばれて高値で取引されていますので、発育良好な子牛を飼養することが求められます。

これから寒くなり、子牛の発育や病気等の障害になる寒冷対策が必要となります。

まず・・・

哺乳子牛は親牛や肥育牛と比べて寒さに弱く、生産に影響を及ぼす気温（生産環境限界温度）は5℃とされています。（下記表参照）ただし、牛にとって発育に適した温度で風のない状態での指標なので、注意が必要です。体が濡れているところへ風があたると、温度計の数値以上に体感温度が下がり、大きな寒冷ストレスを受ける場合があります。

	適温域	生産環境限界
哺乳牛	13~25℃	5~32℃
繁殖牛	10~15℃	-10~30℃
肥育牛	15~25℃	5~30℃

①子牛はなぜ寒さに弱いのか？

- ・子牛は親牛に比べて皮下脂肪が少ない。
- ・体重が小さい割には体表面積が大きく熱を奪われやすい。
- ・第1胃の発酵温度は約40℃と言われていますが、子牛の第1胃は発達が未熟なので、体内からの熱発生が少なく寒い。

②子牛から体温が奪われるパターン

- ・すきま風で体温が奪われる。
- ・体が濡れて水の蒸発で体温が奪われる

- ・飲水が冷たい。
- ・冷たいコンクリートや濡れた敷料で床冷え

③防寒対策として

- ・すきま風を防ぐ（ベニヤ板、カーテン等を利用）
- ・表皮体温の維持（カーフジャケットの活用・古着、毛布等でもよい）
- ・保温機の活用（遠赤外線暖房装置の利用）
- ・敷料を厚めに敷く（のこくず、わら、麦わら等を使用）

※注意すること

- ・子牛は外気温が15℃以下になると、体温維持のためにエネルギーを消費します。特に冬場はエネルギー不足、栄養不足になりがちなので牛を良く観察し、体調の変化を早期に見つけることが大切です。
- ・子牛の場合、保温のために外気を遮断したりしますが、アンモニアガスの充満や細菌の増殖も促してしまいます。（呼吸器病の発生、肺炎など）
天気の良い日には適度な換気や運動場等への子牛を開放する。

営情

作物・営農・技
情報をお届



2月柑橘園管理



果樹

原口 悠貴

下島営農指導センター
080-2725-7775

1. 樹勢回復対策

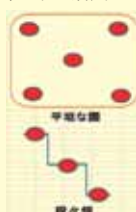
1月11日～13日にかけて、天草全域で低温と降雪に見舞われました。樹体及び果実にも影響が出ている事が予想されます。今後出荷される果実については、す上がり果等の混入がないよう発生の有無の確認をお願いします。また、園地においては今後の経過観察と落葉が見られる園では剪定を遅らせる又は、剪定を行わないようにし樹体回復を優先させましょう。

薬 剤 名	希釈倍数	備 考
尿素・アミノジューシー-N 14	500倍	収穫後3回以上
神協スピリッツ	500倍	集中散布を行う

2. 土壌改良・施肥設計計画（土壌分析の実施）

昔に比べみかんの品質が悪い・収量が落ちた等の症状は出ていないでしょうか？

良い作物作りはまず健全な土づくりが第一歩です！JAでは土壌分析を行い園地の状況に応じた施肥設計を行っています。土壌分析を積極的に活用し、高品質果実生産を行いましょう！！



土壌分析時の土の取り方

平坦な園地では●で示した5か所から土を採ります。また、段々畑の場合は、各段の真ん中付近の土を採ります。その際表層から5cmの土を取り除き、その下の土を15cm程度垂直にとります。その後陰干しを行い良く乾燥させます。（石などはこの時に除いて下さい）乾燥が終わりましたら500g以上土を袋に入れ、JAにお持ち込み下さい。
※分析料として、1サンプル当たり3,000円必要です。

○土づくり

春先の表層根の発生をよりスムーズにするため、堆肥などを投入し、健全な土作りを行いましょう。

時 期	資材名	10a当たり	備 考
2～3月 (収穫後)	堆肥	2,000kg	完熟物
	客土	4,000kg	3cm以内
	ヤシガラ	20袋以上	2キロビック(120ℓ/11kg)
	土の恵み	12袋以上	ペレットタイプ

○施肥

時 期	資材名	対象品種	10a当たり	備 考
2月上旬	炭酸苦土石灰	全品種	10袋	
	新有機中晩柑一発	清見・河内晩柑・甘夏パール柑・テコボン	10袋	超省力化タイプ(年1回施肥)

3. 剪定について

平成29年産の成り方はどうでしたか？柑橘ではその年に多く果実が成りすぎると翌年は着花量が減少し、結果的に収量が落ちる傾向にあります。成りが多かった園では、剪定は間引き主体で軽めに行うようにして下さい。

また園地内が密植で縮間伐が必要な園では、まず縮間伐を行いましょう。

デコボンでは、花が少ないと思われる園地については、花を確認した後剪定を行いましょう。

4. 苗木の植え付けについて

○植え穴、植え付け土の準備

まず、幅80～100cm、深さ40～50cmくらいの植え穴を掘り、排水は良好に保てるようにし、完熟堆肥、肥料、苦土石灰などを入れ、覆土し、盛り土状態にして下さい。

○植え付けの手順

①最初に定植位置を決め、見通しながら植栽しましょう。傷んだ根は切除し、地上部は枝が充実している位置で切り返します。特に、不知火の苗木の細根は、乾燥させると、その後の発根力が弱まり、活着と樹の生育を悪くするため必ず乾燥させないようにする。

②植え穴は広く掘り返し、穴の中央部を高くする。苗木をのせ、根は自然の方向に斜め下に交錯しないように広げ、下方向から順に覆土する。その後は植え穴の土を全部戻し、台木部が地表面に少し出るような位置で軽く押さえ、かん水を十分に行う。最後に支柱を立てワラなどを敷いて下さい。

新植の場合（モデル）

資材名	1本当たり
堆肥	40ℓ
ヤシガラ	30ℓ
マリンカル	1.5kg
ようりん	1kg